

| | | | | | |
|-------|-----------|---------|---------|------|-----|
| 科目名 | 観光研究ゼミナール | 科目コード | 1236 | 単位数 | 2 |
| 担当者名 | 島津 望 | 開講セメスター | 第7セメスター | 開講年次 | 4年次 |
| 授業の方法 | 演習 | 実務経験 | 無 | | |

● 授業のねらい

限界集落問題を通して、地域再生の産業構築について学び、インバウンド観光等の特需に頼らない、自立した経済圏の作り方について考える。ゼミナール とはこの問題の基礎について学ぶが、ゼミナール では、特に卒業論文を書くことを前提にして、さらに深掘りして学ぶ。これを通して、本学のカリキュラム・ポリシーである「自ら課題を発見し解決する能力を身につけること」を目指す。

● 到達目標

地域再生の産業構築事例を通して、地域固有の課題の背景、原因、解決策を総合的に理解する能力が身につくようにする。

● 授業内容

- 1週目 イントロダクション（ゼミテーマの概要、ゼミの進め方など）
- 2週目 さまざまな地域の課題
- 3週目 地域活性化の取組事例
- 4週目 地域資源活用型経済
- 5週目 学生による発表（発表者1）
- 6週目 学生による発表（発表者2）
- 7週目 6次産業型経済
- 8週目 学生による発表（発表者3）
- 9週目 学生による発表（発表者4）
- 10週目 交流産業型経済
- 11週目 学生による発表（発表者5）
- 12週目 学生による発表（発表者6）
- 13週目 これまでのまとめ：地域資源保全型産業、6次産業、交流産業、小さな経済の全体を総合的にシステムとして理解する
- 14週目 ゼミ論文の発表（受講者の半数）
- 15週目 ゼミ論文の発表（受講者の残り半数）
- 16週目 学期を通しての総括と講評。ただし、やむを得ず15週までの授業内容を実施できなかった場合は補講授業をおこなう。

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

ゼミでの報告資料作成やゼミ論文を書くために、週3時間の予習・復習が必要である。

● 成績評価の方法・基準

授業参画、プレゼンテーション、レポートなどによる総合評価。

● 履修上の留意点

予習は予め提示したテキストの箇所を読み込むことや、発表のための資料作成に2時間を要する。
 復習はその週に学習した内容をノートにまとめることに1時間を要する。

学期の最後にはゼミ論文提出を義務とするので、心得て履修すること。

● 課題に対するフィードバックの方法

課題(プレゼンテーションとゼミ論文)に対するフィードバックは当日あるいは翌週に、課題のポイントを解説しながら、発表者や他の学生とディスカッションするなどしておこなう。

● テキスト

藻谷浩介『里山資本主義』（角川書店）859円
 このテキストは、特殊講義（農山村再生論A）、特殊講義（農山村再生論B）、観光研究ゼミナール、と 同じものである。

● 参考書

藻谷浩介『進化する里山資本主義』（the japan times 出版）1800円
 内山節『共同体の基礎理論』（農文協）2860円

● 更新日付

2022/03/01 04:07